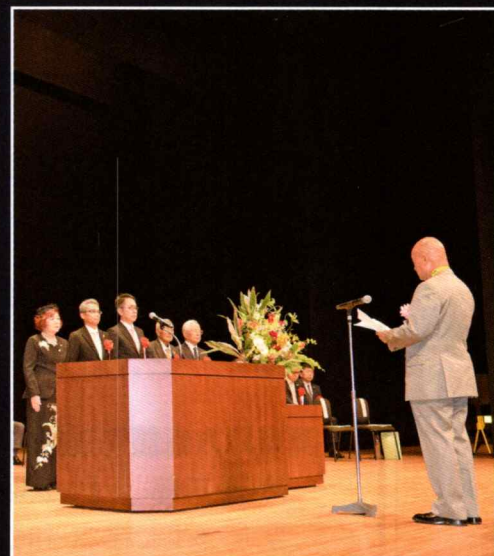


八王子地区 保護司会だより

第121号

令和6年12月25日発行
発行 八王子地区保護司会
編集 広報部
電話 042-657-4928

令和6年度 東京更生保護事業関係者顕彰式典



令和6年度更生保護事業関係者顕彰

令和6年度東京更生保護事業関係者顕彰式典

去る令和6年11月27日（水）[J:COMホール]に於いて、東京更生保護事業関係者顕彰式典が開催されました。

当日は八王子市長をはじめ、多数の来賓の方々が参列される中、各表彰の授章が滞りなく行われました。

式典は高尾山薬王院山伏の法螺貝を合図に始まる、八王子ならではの演出で、八王子車人形や八王子芸者衆の舞台へと続きました。続いて八王子地区保護司会会長による「天皇陛下おことば」奉読ののち、顕彰が行われ、最後に次回開催地区保護司会会長の挨拶をもって閉会となりました。

小春日和の好天にも恵まれ、参列された方々をはじめ、多くの保護司会関係者のご尽力により、式典は成功裏に終了いたしました。



法務大臣表彰（多摩連顕彰式典にて）

前列左から佐藤誠、本吉邦俊、八木光司 後列左から秋山重男、中川常彦の皆さま

法務大臣表彰 7名

赤川 浄友、秋山 重男、佐藤 誠、中川 常彦、松崎 信夫、本吉 邦俊、八木 光司

全国保護司連盟理事長表彰 3名

楠田 周良、萩生田 元章、淵上 吉治

関東地方更生保護委員会委員長表彰 7名

一ノ瀬 隆、大山 久人、小俣 信次、菊谷 文男、真田 安浩、真保 修、関口 眞吾

関東地方保護司連盟会長表彰 12名

片岡 三郎、上村 公昭、菊池 寛子、後藤 貴弓、田畑 修、玉那覇 明子、飛川 美和子
奈良 智昭、橋本 和弘、平本 淳、松本 誠司、吉田 千代美

東京保護観察所長表彰 6名

児嶋 直子、小西 知子、小林 千里、小林 由美子、立石 晴美、山本 法史

東京保護観察所長感謝状 家族功労者 2名

伊藤 ひろみ、町田 万理子

東京都保護司会連合会会長表彰 6名

荒木 美奈、片桐 修一、木村 正人、清水 隆、玉那覇 明、馬場 貴大

表紙写真：令和6年度東京更生保護事業関係者顕彰式典より

第74回社会を明るくする運動 広報・清掃活動と「ふれあいスポレクフェスタ」

高尾分区 荒木 美奈

犯罪や非行のない地域社会を目指す「社会を明るくする運動」。7月の強調月間に2つの事業が実施されました。

まず、恒例の駅頭一斉広報・クリーン活動が、7月13日（土）に市内4か所（JR八王子駅・京王八王子駅・南大沢駅・高尾山口駅）の駅頭で行われ、総勢218名の参加者がウェットティッシュの配布やごみ拾いに汗を流しました。

JR八王子駅では、近隣校であるいずみの森義務教育学校の児童・生徒、保護者とFC東京のメンバーが活動に参加しました。子どもたちが「社会を明るくする運動です。立ち直り支援を行っています。」と元気な声で啓発をしてくれたことで、今まで以上に活気のある取組になりました。

また、初めての企画である「ふれあいスポレクフェスタ～立ち直りを地域で支える八王子～」が7月15日（月・祝）に富士森体育館で開催されました。

本イベントでは、幅広い世代に更生保護等の理解を広めていくことを目的に、スポーツ・レクリエーション、学習、特別授業の3つのコーナーが設けられました。

■スポーツ・レクリエーションコーナー

東京八王子ビートレインズのプロ選手によるフリースロー体験や八王子市レクリエーション協会による吹き矢、ラダーゲッター等のレクリエーション、八王子BBS会による更生

保護キャラクターの釣りゲーム、はちびバ（旧児童館）による、はちびバランド（子ども向けの遊びを集めたコーナー）など、各団体が工夫を凝らして、親子で楽しめるブースを展開しました。

■学習コーナー

更生保護や矯正、薬物依存等について、クイズに挑戦しながら、楽しく学びました。多摩少年院のブースでは、少年院の理解を深めるためのパネル展示と、在院生が育てたじゃがいもを1kg100円で販売し、見事完売しました。

八王子ダルクと薬物乱用防止推進八王子地区協議会のブースでは、薬物に関するクイズや薬物乱用防止を目的としたポスター・標語を展示し、薬物に関する理解を深める機会となりました。

当日は柵田中学校のボランティアが各ブースのサポートを行いました。中学生と各団体が交流することで更生保護の理解が深まり、立ち直り支援の輪が広がったと思います。

■特別授業

「身近にある薬物依存」をテーマに、八王子ダルク施設長の加藤隆氏が講演を行いました。授業では、中学生でも薬物は身近にあること、誘われても断る勇気を持ち、自分や友達を大切にすることを話し、中学生も真剣に聞いていました。

また、新潟県燕市議会議員・保護司（元法務教官）大島靖浩氏による「自分の考え方のくせに気付こう～認知行動療法の基礎を学ぶ～」というテーマでの講演では、各自が自分の考え方のくせを考えるワークを行いました。

当日は、約430名が来場し、子どもから大人まで幅広い世代の方々がふれあい、社会を明るくする運動について、周知することができたと思います。



八王子市レクリエーション協会によるラダーゲッター

第74回社会を明るくする運動

八王子実施委員会作文コンテスト最優秀賞



明るい社会の輪をみんなに

南多摩中等教育学校 1年(受賞時鎌水小学校 6年) 結城 杏^{もも}

最近、私の住んでいる住宅街で車上あらしが起きました。二度同じことが起こっていて、よく学校帰りにパトカーが見回りをしていました。今まで、犯罪を自分の目で見たり巻きこまれたりしたことがなかったけれど、実際に犯罪を見たので、犯罪は身近でも起きると感じました。車上あらし以外にもたくさんの犯罪が色々なところで起きていると思うとこわくなります。私は、どんな犯罪が起きやすいのか気になったので調べてみると、せつとう、万引き、さぎなどがあげられていました。このような犯罪をしてしまう人たちは、なぜ犯罪や非行をしてしまうのか、考えてみました。大人にあまりかまってもらえなくてさびしい思いをしていたり、いじめやいやなことがあってストレスがたまっていたりするからだとは思いました。犯罪をしてしまった人たちは、罪が重いと刑務所もしくは少年院に行きます。

私は、少年院で何をするのか気になったので少年院について調べてみると、少年院では少年、少女を更生させるために工夫していることを二つ見つけました。一つ目は、どなったりおこったりせずに面談を重ね、信らい関係を築いていたことです。更生だから、きつい仕事をやらされたりするのかと思ったけれど、そんなことは全くなく言葉で反省させようとしている点が良いと思いました。二つ目の工夫が、ありのままのその子を受け入れて更生させていることです。最低でも、社会で生きていく中で必要なことは身につけさせるけれど、それ以外はありのままのその子を受け止めているそうです。確かに、自分のことを否定ばかりされると心が病んでしまい、再犯を起こすきっかけにもなりそうなので、このコミュニケーションのとり方は良いと思いました。しかし、少年院、刑務所を出た後に犯罪をくり返してしまう人がいます。再犯をしてしまう人たちは、周りの人から「あの人は元犯罪者だから関わらないようにしよう。」とさけられたり、周りから馬鹿にされたりして、孤立してしまった人や、ストレスがたまってしまった人が多いと思います。こうならないために、犯罪をおかしてしまった本人は一生けんめいやっていることを態度にあらわしたり、助言やアドバイスを素直に受け入れたりするといいと思います。周りの人は、いくら反省したとはいえ、元犯罪者で

あることには変わりはないので少しこわいとは思いますがその人を受け入れてあげることが大切だと思います。一方、退所後、少年院の人はその人のことを直接助けることはできません。でも、社会や学校に送り出すときに、

「これからは、他の人たちと一緒に生活だね。もし、困ったことがあったら相談してね。」

など自分の居場所があるということを伝えるような声かけをすると本人も安心して社会や学校で過ごすことができると思います。

次は、少年院の更生プログラムについて考えてみました。すでに行われているかもしれないけれど、次の二つの更生プログラムがあると良いと思います。

一つ目は、担当教官と一緒に外に出て散歩をすることです。なぜなら、町の様子や人の様子を知ることができ、自分が少年院から出た後のことを想像できてワクワクすると思ったからです。

二つ目は、少年院に入っている人同士でしゅみの話をしたり、遊んだりする時間を設けることです。なぜなら、少年院に入っているうちに人との関わり方を覚えた方が、少年院を出て社会や学校に行くときに人付き合いに苦労しないと思ったからです。自分のことや自分のしゅみについて話をしたら同じしゅみの人同士、仲が深まりそうです。

犯罪や非行を防止するには、たくさんの人と毎日会話をして信らいできる人を増やしていくことや、たくさんコミュニケーションをとることや、気軽に相談できる環境を作っていくことが大切だと思います。毎日このようなことを続けるだけで、友達、家族、先生との仲が深まりなやみを気軽に相談できることにもつながります。私の学校では、いじめ、不登校などをなくすために先生と一対一で話す機会を設けています。このように、先生と自分だけの空間でだれもいなければ、他の人の目を気にすることもなく、友達にも気づかれずに相談することができます。私の学校だけでなく、他の学校もこのような環境をつくれればいじめられたり、馬鹿にされたりする人は減ると思います。だから、私も友達が気軽に相談できるようにたくさんのコミュニケーションをとることを心がけていきたいです。

最優秀賞受賞者インタビュー

結城 杏さん（南多摩中等教育学校）

インタビュアー・広報部 大久保 隆 / 荒木 美奈

大久保 受賞おめでとうございます。素晴らしい作文ですね。内容が的を得ていて、保護司が書くような感じで、みんな驚いていました。

結城 ありがとうございます。

荒木 犯罪が身近にあったということですが、よくご家族とも犯罪についてお話をするのですか？

結城 お母さんが警察の防犯メールを登録していて、近くで事件などがあると気をつけた方がいいよと言われます。事件に巻き込まれないためには自分自身も気をつけなければいけないと教えてくれています。

荒木 少年院のことにについて調べたとありますが、どうして調べようと思ったのですか？

結城 罪を犯した人がその後どうなるのかな？と思って、調べてみました。刑務所とか少年院では、どのように生活するのか？罪を犯したので、労働をさせられて厳しい生活をしているのか？と思って、調べてみました。

荒木 何から調べたのですか？調べてみてどうでしたか？

結城 インターネットや本を読んで調べました。そうしたら、社会に復帰できる様々なプログラムがあって驚きました。犯罪した人は社会には戻れないと思っていました。

荒木 作文にも書いてありましたが、結城さんは犯罪をした人にも理由があると思ったんですよね？

結城 はい。何か嫌なことがあったり、ストレスで、悪いことをしてしまうのかなって思いました。

荒木 優しいですね！犯罪をした人は社会に戻ってこないでいいと思っている人が多い中、中学生の結城さんがそのように優しい気持ちを持っていることに感動です！そして、結城さんが考えたプログラムについてもお話してもらえますか？

結城 1つ目の散歩は、刑務所や少年院に入って、社会から離れている時間があると、実際社会に出るときに、不安だと思うので、担当教務官とお散歩をして、街や人の様子を見ていれば、少しは安心ではないかと思いました。

2つ目の趣味の話や遊ぶことは、人の付き合いに慣れておくことがいいと思ったからです。私も小学校で、風邪で長いこと休んだことがあった時に、仲良かった友達と話すことができなくて、寂しい思いをしました。定期的にコミュニケーションをとって、人との関わり方を覚えるといいと思います。

荒木 結城さんもそういう寂しい経験をしたんですね。確



かにしばらく少年院に入っている間に友達との連絡を取らなくなってしまったら、不安ですね。自分からはなかなか連絡を取れないし、相手から声をかけてもらえたら嬉しいですね。

荒木 最近気になっているニュースはなんですか？

結城 横浜の強盗事件です。事件が起きた現場の近くに祖父母が住んでいるので、同じことが起きないといいなと心配しています。

荒木 あのような事件を起こす人たちの気持ちをどう思いますか？

結城 初めは闇バイトだとわからないけど、個人情報を知られてしまったから、やめることができなくなるみたいです。短時間高収入のような仕事はないと思うので、最初から気をつければよかったと思います。自分も将来大学生くらいになってアルバイトをする時には気をつけようと思います。

大久保 今の若い人たちは、個人情報を平気で教えてしまうから、騙されることが多いみたいですね。自分の情報を大切にしてほしい。人気者になりたい有名になりたいということで、インスタなどで自分の情報を公に出してしまうことも悪いことに狙われてしまうので、気をつけて欲しいです。

ところで保護司のことはご存じですか？

結城 作文を書いている時に調べて、表彰式の時にもお話を聞いて、また帰った後にも調べてみました。

大久保 わからないところをすぐ調べるのが素晴らしいですね。

荒木 尊敬している人は？

結城 小学校の時の先生です。子供の視点で考えてくれるいい先生です。喧嘩した時もどちらか一方を責めることなく、それぞれ悪いところを平等に見てくれる。相談にも、よくのってくれます。

荒木 先生に出会えたことが今の結城さんを人間性を作ってくれたのかもしれませんがね。結城さんのような優しい人が将来保護司になってくれると嬉しいです。今日はありがとうございました。

活動状況報告

研修部管外視察研修 府中刑務所 9月26日(木)

研修部の視察研修に参加しました。当日の行程は、午前中に都立小金井公園内の「江戸東京たてもの園」を見学、昼食後、午後1時半からおよそ2時間の府中刑務所の視察でした。

府中刑務所は、広さ26万2000平方メートル（これは東京ドーム約6個分弱の広さになります）、収容定員2668名（見学当時は約1700名収容）、職員約600名の日本最大の刑務所です。全国に9つある、医療重点刑務所の1つに指定され、身体・精神疾患患者も多く収容されています。

近隣には職員家族の宿舎が多く立ち並び、塀を除いては、集合団地を思わせる景色に、付近の住宅街との調和を重んじている印象を受けました。

刑務所に入ると、案内役の刑務官の方から、施設の沿革と概況について説明をいただき、その後、施設内部を参観しました。

受刑者は年々、高齢の方や外国人の方が多くなる中で、刑務所内の取り組みで、興味深かったことは、特に高齢者への取り組み方へは、今の時代ならではの工夫がされていたことです。介護施設を思わせるようなトレーニングマシンの設置や、パソコンによる指先の訓練、お手玉投げによるバランス感覚向上など、受刑者が社会復帰しやすいような、認知や身体機能を高める訓練を行っていて、こうしたことは機能向上の作業として認められ、作業の名のもとにリハビリが行われています。

さらに府中刑務所では、受刑者が介護職の資格を取り、介護福祉士職員の指導の下、他の受刑者の身体介護やおむつ交換などの実践的作業をおこない、それもまた、作業や訓練として認められています。

刑務所内も、一般社会と同じ高齢化が進み、今までとは違う工夫が求められているという、日本の縮図を見る思いでした。（高尾分区 加藤正道）



東分区分外研修 立川拘置所 9月19日(木)

参加者8名で、東大和市にある東京都薬用植物園を経由して、昼食をはさみ午後から立川拘置所へ研修に行ってきました。外見はどう見ても拘置所とは思えない作りですが、中に入ればドアはすべて生体認証。オートロックで脱走はできません。一時、拘留者が騒ぎ警報装置が鳴ったものの、庶務課長さんに所内をくまなく案内していただき質疑応答も活発に行い有意義な研修となりました。（東分区分長 秋山重男）



高尾分区分外研修 東京拘置所 9月20日(金)

東京拘置所は小菅駅から徒歩5分で、私が訪問した前橋刑務所・多摩少年院より新しい建物でした。拘置所は、刑罰が確定していない未決拘禁者と死刑囚を収容しています。それ以外に受刑者もいて、拘置所内の炊事等の作業を行っています。未決拘禁者と受刑者は放射状の建物に分かれて収容されていて、受刑者の棟の居室、運動場、面会室、調理室を見学しました。東京拘置所の役割と施設と環境を知ることができ、参考になりました。（高尾分区 木村正人）



西分区分外研修 無言館 10月24日(木)

西分区分の日帰り研修旅行がOB・OGを含め16名で長野県上田市にある「戦没画学生慰霊美術館無言館」の見学、上田柳町散策、手打百藝お西のそばの食べ比べなど盛沢山の内容で行われました。車中ではまず「動機付け面接法」について学びました。無言館では、犠牲になった画学生の無言の叫びがひしひしと伝わってくる展示物が、見る者の心を重く打ち、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを考えさせられました。先輩保護司さんからの思い出話もお聞きでき、手には信州の美味しい果物やお菓子、心には保護司としての新たな思いを一杯にして、充実した研修を終えました。(西分区分 日野出美智子)



新任保護司のご紹介

東分区分 田中 午一郎 こいちろう

令和 6 年 5 月 25 日付けで、保護司を拝命しました。昭和41年1月6日滋賀県甲賀郡にて出生八王子市の小・中学校卒業後、世田谷の高校・大学中退後、以降八王子在住で居ます。生業は「建築業」をしており、独立後26年目を迎えています。仕事をして過ごして居る中、娘も小さい頃から参加して居た地元の「育成会」の先輩（現在は町会長）からのお誘いで、今回縁を感じての「保護司」となりました。抱負としては、未だ実感も無く、ただ自分達が若い頃と比べ、昨今の案件は、薬物等が多く複雑だと感じますが、これからの事なので、一生懸命に頑張っていこうと思います。



東京都薬物乱用防止推進八王子地区協議会「いちょう祭り」にて啓発活動11月16日



前列左から 山田雅彦、山中廣司、関口眞吾
後列左から 武田和枝、森田悦幸(八王子防犯協会)、森崎陽子

東分区分 三上 浩一

30年に亘り、公共施設の管理運営や地域イベントの開催などを通じて、コミュニティづくりに携わって参りました。

政治への不信、大企業の不祥事、改革を余儀なくされる教育現場。そして増加する家庭崩壊。あまりにも不安定な世の中ですが、人のつながりの大切さは変わらないと信じています。そんな思いを保護司の役割に役立てることができれば幸いです。

ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



東分区分 佐々木 彰代 あきよ

はじめまして、東分区分に仲間入りさせていただきました。

子育ての頃「子どもの話をちゃんと聴ける大人になりたい」と思い、カウンセリングを学びました。元々、聴くより自分が喋りたくなってしまうタイプの人間です。歳も重ねましたし、大分待てるようになりましたが、保護司としては一層の自覚を持って、なるべく黙って寄り添うことを心掛けたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



パラアートを開催して「移動式 MISA 美術館」

この度、自愛会としての地域貢献の一環としてパラアートの「移動式MISA美術館」を八王子保護司会、八王子地区更生保護女性会と共催で開催しました。施設の性質上あまり大々的にはアナウンス出来なかったにも関わらず、3日間で100名以上の方が来館にされ、職員も総出で搬出入、当日の対応などに追われていましたが、皆様のご協力のもと成功裏に終了することが出来ました。作者は相模原市在住の大橋美沙さん。彼女は横浜美術大学卒業、2022年パラリンアート世界大会で準グランプリ受賞、現在は町田市、横浜市の絵画教室講師として勤務しています。この移動美術館は金沢、京都、広島など日本全国に出張しており、今はとても良い形で活動されていますが、ここまで来るには本人は勿論の事、保護者方の葛藤も大変なものだった事と思います。（詳しくは更生保護1月号に掲載されます）この作者とその類まれなる才能をより埋もれさせることなく、また、これが有意義な地域貢献となるよう、自愛会の恒例行事として行きたいと思います。

（みなみ分区/自愛会 植田典仁）



制作中の大橋美沙さん



アンケート実施の予告

少子高齢化や定年延長などの社会環境の変化により保護司活動も様相が変わりつつあり、会員皆さんの現状と忌憚のないご意見、また併せて法務省の保護司制度見直しの有識者検討会で議論された分担制や報酬制などについても聞きたく考えています。持続可能な活動のためにも改善策を見出せるとよいと思っています。後日、皆さんに質問リストを送付しますのでご回答願います。可能な範囲で、次号「保護司会だより122号」にてアンケートの結果をご報告します。